

IV-32

DEMATEL 法による城郭の整備効果に関する研究

—山城、平山城、平城の比較—

岩手大学工学部 正 員 安藤 昭
 岩手大学大学院 学生員 五十嵐 淳
 岩手大学工学部 学生員 ○館ヶ沢和恵

1. 研究の背景と目的

歴史的遺産を、景観形成、まちづくりの資源として生かし、地域活性化や環境の整備へ活用しようとする動きが年々増加してきている。そこで、本研究では、歴史的遺産の中でも日本独特の美と個性を兼ね備えた城郭に着目し、全国の城郭についての現況調査を行うとともに、城郭を整備・利用・保全することが、地域振興に対しどのような効果・影響を与え得るかを地域に生じうる幾つかの事象との関連性の中で把握し、地域振興に対する効果を明らかにすることを目的とする。

2. 調査の概要

まず調査対象とする城郭を選定し、全国城郭の現況調査（調査1）と城郭の整備・利用・保全に関する調査（調査2）の2つの調査を実施した。城郭の選定にあたって次のような基準を設けた。①天守が現存している。②天守、櫓、城門等が復元されている。③発掘調査等の調査が行われている。④城郭または遺構が国宝、国の重要文化財、特別史跡、史跡に指定されている。この4項目のいずれかに該当している173の城郭を調査対象とした。調査方法は郵便調査法で行い、配布数は173票、回収標本数は調査1が117部（回収率68%）、調査2が103部（回収率60%）であった。被験者は、当該市町村の教育委員会文化財課の担当者とし、DEMATEL法により解析を行った。

3. 評価項目の選定

調査2のDEMATEL法で用いる項目の選定にあたっては、始めに文献、研究報告書、発掘調査等から城郭の整

備・利用・保全と地域振興との関連性が予測できる36項目を選定した。次いで36項目を用いて事前調査を行い最終的に25項目を調査項目とした。（表一1）

4. 結果および考察

調査票2では、問1として城郭を整備・利用・保全することが各項目にどれぐらいの効果を与えるか、効果の度合いを4段階で評価してもらい、効果があるとした項目については、問2としてその項目が他の項目にどのように影響しているか、直接的な影響の度合いを0～4の5段階で評価してもらった。このことから、城郭を整備・利用・保全することによる地域振興事象間の連関性を把握した。解析を行う際、回答のあった103城郭を天守の有無、都市の人口規模、城郭のタイプ別に分類した。城郭の分類の仕方は次の通りである。①天守の有無による分類：天守が現存している又は、天守を再築している城郭を「天守あり」とし、天守を持たない城郭を「天守なし」と定義し、2つに分類した。また、調査にあたって天守がある城郭に対しては実際にどのような効果・影響があったかを、天守がない城郭にはどのような効果・影響を期待するかを聞いている。②城郭タイプ別による分類：城地の地形による分類であり、山城、平山城、平城の3タイプに分類した。③都市の人口規模による分類：人口10万人以上100万人未満の都市を中都市、人口10万人未満で市制施行している都市を小都市として、中都市、小都市、町村の3つに分類した。ただし、人口100万人以上の都市は対象外とした。以上により分類した城郭数を表一2、表一3に示した。

表一 調査で用いた項目

番号	項目	
1	地元商店街が活性化される	14 都市の憩いの場・オアシスが確保される
2	伝統・郷土文化が保全される	15 コミュニティー豊かな都市が創出される
3	自然環境が保全される	16 公共事業が増大する
4	環境教育が促進される	17 国際交流が促進される
5	郷土愛が育成される	18 行政・地域振興への住民参加が促される
6	地域間の交流人口が増加する	19 後継者不足が緩和される
7	雇用が創出される	20 地域遺産への関心が高まる
8	地域が再生される	21 グリーンツーリズムの需要が高まる
9	地域の知名度が向上する	22 情報基盤の整備が促される
10	特産物の消費が拡大する	23 新規産業が創出される
11	地場産業が活性化される	24 生涯学習・体験学習が推進される
12	人材が確保および育成される	25 地域の持続的な成長が維持される
13	地域の個性が創出される	

表二 天守の有無・都市の人口規模による分類

天守の有無	都市の人口規模別	回答城郭数
天守がある城郭	中都市	14
	小都市	11
	町村	5
天守がない城郭	中都市	21
	小都市	19
	町村	32
合計		102

表-3 天守の有無・城郭のタイプ別による分類

天守の有無	城郭のタイプ別	回答城郭数
天守がある城郭	山城	5
	平山城	19
	平城	5
	その他	2
天守がない城郭	山城	26
	平山城	24
	平城	21
	その他	1
合計		103

それぞれについて DEMATEL 法により解析を行い比較、考察を行った。

(1) 都市の人口規模による比較考察

天守の有無により分類し、それを都市の人口規模で比較し、考察を加えた。中都市での結果を図-1、図-2 に示す。なお、縦軸に重要度をとり、重要度が最大となる項目を 100 としている。中都市では、天守がある城郭において「5.郷土愛が育成された」、「9.地域の知名度が向上した」、「13.地域の個性が創出された」がお互いに強い影響を及ぼしあっている。天守があることが地域の個性の創出、知名度の向上へとつながり、自分たちの郷土に誇りを持てるようになったためであると考えられる。天守のない城郭では「5.郷土愛が育成される」が最も重要度が高く、「20.地域遺産への関心が高まる」、「2.伝統・郷土文化が保全される」へ強い影響を与え、これらの 3 項目が互いに深く関わり合っている。天守のない城郭の担当者が、城郭の整備・利用・保全が地域振興事象へ与える効果として期待するのは、郷土愛や地域への興味・関心という精神的な面での効果であり、

地域住民の意識の高揚であると考えられる。天守のない城郭では「2.伝統・郷土文化が保全される」の影響を期待しているが、天守のある城郭では「9.地域の知名度が向上した」、「13.地域の個性が創出された」の重要度の方が、「2.伝統・郷土文化が保全される」よりも大きい値となり、天守のない城郭での期待とは反対の結果となった。

(2) 城郭のタイプ別による比較考察

天守の有無により分類し、それを山城、平山城、平城の 3 タイプで比較し、考察を加えた。山城では「20.地域遺産への関心が高まった」、「5.郷土愛が育成された」が重要度が高く、「24.生涯学習・体験学習が推進された」がまわりから多くの影響を受けていることがわかる。平山城では「5.郷土愛が育成された」、「9.地域の知名度が向上した」、「13.地域の個性が創出された」が結びつきが強く重要度も高い。平城では「9.地域の知名度が向上した」、「6.地域間の交流人口が増加した」が互いに大きく影響しあい重要度も大きくなっている。都心部にある平城では、商店街の活性化、特産物の消費拡大など地域産業の活性化へつながる項目が重要度が大きくでているのに対し、山城ではこれらの項目は重要度も小さく、他の項目との結びつきも薄くなっている。タイプ別による比較でも地域振興事象での重要度が大きかったのは、郷土愛、地域遺産への関心の高まりなど住民意識の高揚に関する項目であった。歴史的遺産の保存、活用が地域住民に対し精神面で大きな影響を与えることが明らかとなった。

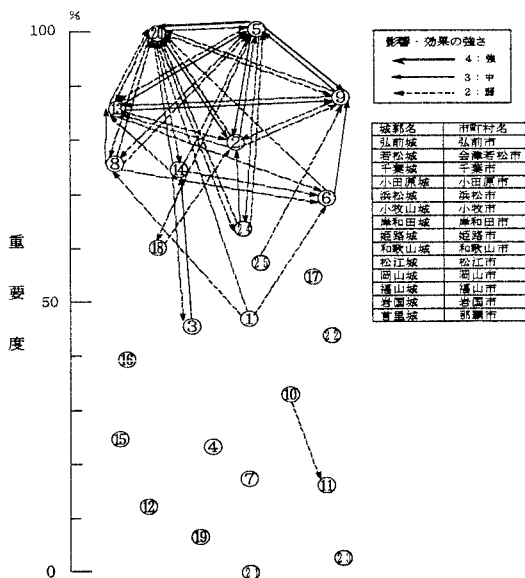


図-1 中都市で天守がある城郭における連関図

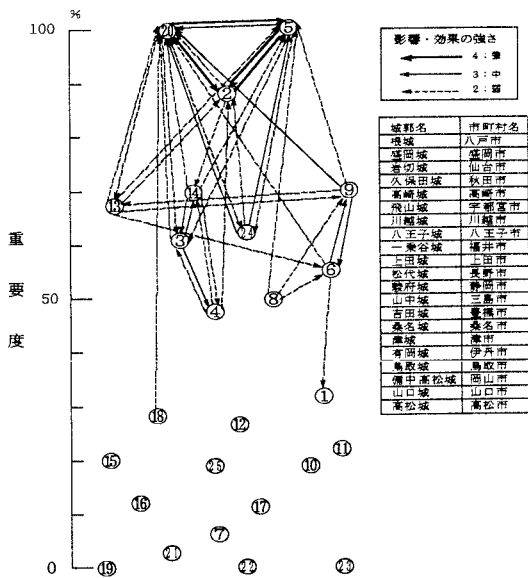


図-2 中都市で天守がない城郭における連関図